

参加無料

偽・誤情報が及ぼす

社会経済活動への影響と対策

オンライン
& 対面

2024. **12.13** FRI
13:15~16:55



JA 共済ビル 9階 (東京都千代田区平河町 2-7-9)

東京メトロ 半蔵門線・有楽町線・南北線「永田町駅」4番出口 徒歩2分

ITの急速な進化によって、私たちの生活は大きく変わろうとしています。良い面もたくさんある一方で、フェイクニュースに代表されるディスインフォメーションや意図せざるミスインフォメーションが私たちの社会生活に大きな影響を及ぼしています。

真の Society5.0 (DXによる人間中心社会) を実現するためには、誰もがその被害者、そして加害者になりうるディスインフォメーション/ミスインフォメーションの問題解決は避けて通れないものです。

本セミナーでは、ディスインフォメーション/ミスインフォメーション対応について、IT、社会学、心理学、脳科学等、様々な観点から私たちがこれから何をすべきかについて考えてみます。

皆さまの積極的なご参加をお待ち申し上げます。



越前 功

国立情報学研究所
教授

笹原 和俊

東京科学大学
教授

田中 優子

名古屋工業大学
教授

山崎 和行

NTT データ経営研究所
アソシエイトパートナー

参加申込はこちらから

https://www.can-neuro.org/news/can2025_prekickoffsympo/



現地会場参加申込締切:

12/8(日) 23:59

オンライン参加申込締切:

12/13(金) 13:00

主催: 一般社団法人応用脳科学コンソーシアム

協賛: 株式会社 NTT データ経営研究所

後援: JETRO

日本貿易振興機構(ジェトロ)

プログラム

13:15 ~ 13:20

開会のご挨拶

13:20 ~ 13:50

基調講演 1

目には目を！デジタルフェイクにデジタル技術で不正利用を阻む！

国立情報学研究所 越前 功 教授

13:50 ~ 14:20

基調講演 2

計算社会科学でフェイクニュース拡散の仕組みに迫る

東京科学大学 笹原 和俊 教授

14:20 ~ 14:50

基調講演 3

なぜ誤情報を信じ続けるのか？誤情報対策に与える認知バイアスの影響

名古屋工業大学 田中 優子 教授

14:50 ~ 15:20

基調講演 4

脳科学的アプローチに基づく偽・誤情報対策とその社会実装に向けた展望

NTT データ経営研究所 アソシエイトパートナー 山崎 和行

15:20 ~ 15:30

ショートブレイク

15:30 ~ 16:10

CAN2025 活動のご紹介 (CAN 事務局)

16:10 ~ 16:50

パネル討論

偽情報が及ぼす企業活動への影響と対策

パネラー：越前教授 × 笹原教授 × 田中教授 × 山崎 AP

モデレータ：CAN 事務局長 萩原一平

16:50 ~ 16:55

閉会のご挨拶

17:10 ~ 19:00

懇親会



国立情報学研究所
情報社会相関研究系 研究主幹
教授 越前 功

マルチメディアと情報セキュリティ・プライバシー保護の融合分野の研究に取り組み、カメラの写り込みによるプライバシー侵害を被撮影者側から防止する技術や、指紋の盗撮を防止する技術、生成 AI により生成されたフェイク顔映像を検出する技術等の先駆的な技術確立し、これらの技術の実用化をはじめとした社会実装にも大きく貢献。IFIP 日本代表。東京大学大学院情報理工学系研究科 教授 (併任)。



東京科学大学
環境・社会理工学院
教授 笹原 和俊

2005 年東京大学大学院総合文化研究科修了。博士 (学術)。名古屋大学大学院情報学研究所助教・講師、東京工業大学環境・社会理工学院准教授・教授を経て、現職。国立情報学研究所客員教授。専門は計算社会科学。主著に『フェイクニュースを科学する 拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』(化学同人)、『ディープフェイクの衝撃 AI 技術がもたらす破壊と創造』(PHP 研究所) がある。



名古屋工業大学
大学院工学研究科
教授 田中 優子

専門領域は認知科学、実験心理学。人間の意思決定過程における認知バイアスの影響を実証的に探究。近年は、誤情報に対する訂正の効果を理解するため、デジタル環境とユーザーの意思決定の相互作用について学際研究を展開。主論文に『誤情報持続効果をもたらす心理プロセスの理解と今後の展望：誤情報の制御に向けて』。内閣府 消費者委員会 消費者をエンパワーするデジタル技術に関する専門調査会 委員。



NTT データ経営研究所
アソシエイトパートナー
山崎 和行

東京農工大学大学院 工学府 生命工学専攻修了。ニューロ・コグニティブ・イノベーションユニット所属。主に、脳科学や人工知能 (AI) 等の先端技術を用いた新規事業開発・研究開発支援、産学連携マネジメント等の実績を有する。近年は教育、安全保障、知的財産等の分野において脳科学的アプローチに基づく偽・誤情報対策 (模倣品含む) についての研究に従事。